

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1298900018		
法人名	有限会社松風		
事業所名	グループホーム松風		
所在地	千葉県香取市津宮1932番地1		
自己評価作成日	平成25年12月25日	評価結果市町村受理日	平成26年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602
訪問調査日	平成26年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

誕生会は家族とともに参加できる日にあわせて日程を調整して行うこともあります。できるだけ利用者の誕生日当日にお祝いできるようにしています。月1回は外出行事を計画し、外出するようにしています。本年は家族にも声をかけ、ともに外出行事を行うことができました。今後も外出や施設内の行事などは家族と一緒に開催していけるようにしていきたいと考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. JR香取駅より徒歩10分の、長閑な田園の中に立地した平屋建てホームです。居間と食堂が一体となった広いホールがあり、天井は吹き抜けのように高く、明るい光が射し込み、全体的にゆったり寛げるように配慮されています。日当たりも良く、利用者達はテラスやソファで日向ぼっこを楽しんでいました。
 2. サービス面では、理念の「利用者本位の暮らしの継続・利用者の尊厳の尊重」を実践しています。高齢の利用者(平均87歳、96歳超2名)が多いにも拘わらず比較的明るく元気で、地元出身者が多いので話題が合うのか、楽しそうに話している光景が見られました。利用者の馴染みの香取神宮に行く等細やかなケア、月1回の遠出・外食、調理担当職員による家庭料理、週3回簡易リフト浴機を使用しての入浴等、利用者本位のサービスを行っている結果、介護度で2名、排泄面で1名改善した例があります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所玄関と調理場に事業所の理念を掲示している。常に確認していますが、職員体制などが変わったこともあり、今後は理念を構築し直したいと考えている。	地域密着性を織り込んだ5項目の基本理念を掲げ、職員はミーティングや会議時に確認、共有し、日頃のサービスで実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者が地域の自主防災会の理事を務めており、毎年夏の防災訓練に参加している。また、自主防災会が作成した地域住民の避難用・荷物搬出に使うリヤカーを自主防災会の要望に応じて事業所の外に置いている。地域の小学校から運動会観覧の案内があったが、天候などを考慮し参加しなかった。	町内会に加入し、管理者が地域の自主防災会の役員になり、防災訓練に参加しています。近隣の人は散歩時に挨拶を交わしています。現在ボランティアの受け入れや地元小学校との交流を再検討中です。	地域に根ざしたホームとなる為に、地域に貢献する働きかけ(介護相談室の開設、介護説明会の開催等)を行うことが望まれます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設周辺の散歩、市内での外出行事などで入居者と顔なじみの方と出会うことも多い。そのなかで地域の方と会話することもあり、理解をいただいているものと感じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員体制が本年も整わず開催ができなかった。施設内の行事へお誘いし、そのなかで話し合いをするなど工夫していかなくてはならないと感じる。	昨年、今年と相次いで運営推進会議を開催出来ていません。	事情はともかく、運営上の最優先事項として取り上げ、早急に定期的に開催し、サービスの向上に活かすことが望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは主に計画作成担当者が連絡を取り合っている。市町村担当者も出席する年数回開催されるグループホーム連絡会に管理者または計画作成担当者が参加して意見交換をしている。	市担当には、必要な都度ホームの計画作成担当が報告、相談しています。又市のグループホーム連絡会には、積極的に参加し、出席する市担当から情報を収集し、運営に役立てています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言を事業所内に掲示し、いかなる身体拘束も犯罪であるという意識は全職員が意識している。本年は管理者が千葉県で開催された身体拘束防止の研修に参加することができた。定期的で開催しているため、各職員にも参加を促していきたいと考えている。	身体拘束廃止方針を謳い、マニュアルも完備し、全職員は身体拘束について理解しています。外部研修は、本年度管理者が受講していますが、職員が順番に受講することを検討しています。玄関には昼間施錠せず、職員が出入りを見守っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日のミニカンファレンスにて身体の異常などを確認しあっている。本年は管理者が虐待防止に関する研修に参加できた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本年は管理者が高齢者権利擁護の研修に参加した。職員にも研修に参加を促し、職員会議の場などで話し合いができる機会を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約時に家族に説明し、質問に応じている。面会などでも家族から不安な点の質問があれば各職員からも説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設け意見を投書できるようにしている。要望や不安な点があれば面会時に聞くようにしている。また日ごろの状態などは家族に面会時に報告するようにしている。	家族の訪問時に声をかけ、意見・要望を聞き、運営に反映するように努めています。只家族には、「お任せします」という人がいるので、その場合は特に利用者の思い・要望を尊重するように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議の際に意見交換ができればいいが代表者が出席することは少ない。主に管理者が窓口となり代表者と意見交換して各職員へ通達している。	管理者は、職員から日頃の就業時や職員会議時に意見・要望を聞き、運営に反映するようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の整備はできていない。話し合う機会もなく労働時間の変更など労働環境整備は来年の課題である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内などは掲示してあるが参加者がいない。労働環境を整え、研修などに参加できるよう勤務日程の調整をしていくなどの改善策が必要と感じている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	計画作成担当者は各事業所と盛んに交流できている。各職員が参加できるネットワークがないのもあるが交流などができればいいと考える。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	各職員が常に本人からの話をよく聞き、毎日のミニカンファレンスなどで対応を検討している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居する前から管理者が中心となり、家族からの要望を聞くようにしている。入居後も常に状況の報告や面会時などで話を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者と計画作成担当者が中心となり支援策を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	仲のよい利用者は席を近くにするなどの対応をしている。また洗濯物たたみなどを利用者と職員が一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の要望や状態を家族の面会時には必ず報告している。外出時はお誘いをかけることもあり、利用者がなるべく家族と関わる時間が持てるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	教え子が来てくれて一緒に写真を撮ったり、利用者の地元の香取神宮への外出行事で地域の知り合いの方から声を掛けられるなど馴染みの場所への外出などが欠かせないことがわかった。気軽にグループホームに来られる環境作りをしていく必要があるだろう。	今回実施した家族アンケートでも面会に行きやすいと好評で、近所の友人が家族と共に訪れて歓談することもあります。また馴染みの美容院に本人の希望で家族が付き添う等、職員は関係継続支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲のよい利用者同士をと隣の席にしてあげるなどの対応をしている。利用者同士の関係があまりよくない方もいるため、その時は職員が介入して孤立しないような対応や声かけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	計画作成担当者が相談窓口となり対応している。弊社の別の事業所へ行かれた方もおり、引き続き施設間で連携をしている利用者もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話をよく聞き、要望などがあれば毎日のミニカンファレンスや職員会議などで対応を検討している。時には家族へ報告し、本人と話をさせていただきよう願っている。	本人の意向の把握が困難な場合は、表情や首を横に振る、短い言葉等から判断をするように努めています。また申し送り、引き継ぎ時に利用者の状況を職員間で共有し、支援に活かしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から話を聞いて把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のミニカンファレンスにて身体の異常や本人からの発言などを確認し、職員同士で意見を出し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員同士で話し合い、計画作成担当者へ報告して検討課題を見つけていく。必要があれば家族も同席していただいて一緒に検討していく。	計画作成者を中心に本人や家族の意向を尊重し、介護計画を作成しています。介護度更新時(1年か2年に1回)に見直しを行っています。体調に変化があった時等は、随時見直しを行っています。	介護計画は、家族と一緒に半年毎に見直すことが望まれます。家族が同席できない場合は、電話で丁寧な説明や話し合いを行う等の工夫、配慮が望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には本人からの発言も記録しておき、常に確認しながら対応策を検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族と相談しながら対応していくことになる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本年も地域の方と交流する機会を作れなかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回往診していただける医師(内科医)を入居後に主治医に変更する方がほとんどである。強制して主治医を変更することなく家族とよく相談しながら本人のかかりつけ医との関係も築いていきたい。耳鼻科や眼科などは本人のかかりつけ医へ受診に職員が付き添って対応した。	月1回、内科医が往診に訪れています。比較的、丈夫な利用者が多く、職員が外来に付き添う頻度は少ない状況です。歯科にも通院する頻度は少なく、かかりつけ医へ職員が付き添い対応しています。医師との連携ときめ細かいサービスの結果、介護度が改善した例(3→1)もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置はしていない。何かあれば早めに受診するよう心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	計画作成担当者が病院関係者と連絡を取り合いながら対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居相談時に最期までみてくれるのか？看護師は常駐しているのか？との質問が昨年に引き続き本年も聞かれている。細かな対応方法は確立していないが、重度化した場合は主治医と家族と相談しながらできるだけ対応をしていくこととしている。	入居時に重度化した場合の説明をして「緊急時における事前確認依頼書」を交わしています。延命の為の医療行為について箇条書きにし、家族に希望する項目に丸印をつけて貰っています。今後は看取りまで行う方針で、前向きに検討しています。	看取りを行うには、医師との連携や訪問看護師を入れる等、医療面で本人や家族が安心出来る体制が必要です。また終末期に対する研修に参加したり、ホームで看取りに関して職員間で話し合い、共通認識を持つ事が望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応の訓練などはしていない。何かあれば救急車を呼ぶなどで対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	田んぼとの境がわからないほどの大雨が降り、水害への対応を考えていく必要があると感じた。地域の方からは、ここは低い土地で大雨などで近くの水門があふれる場合も考えられるとの話を以前に聞いているので、地域の方々と話し合う機会を持っていきたいと考えている。	自主訓練を年2回実施しています。スプリンクラー、火災自動報知器、消火器等が完備し、緊急対応表、連絡網が掲示され、建物は平屋建てで非常口を数箇所備え避難しやすい作りです。備蓄は2日分程度あります。	必ず一度は消防署立会い訓練及び夜間想定自主訓練が望まれます。首都圏直下型地震等大規模災害が心配される事や避難弱者を抱えている事を考え、防災訓練の追加実施と備蓄(数量、内容)の見直しが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	教師をしていた方もおり、「先生」と呼ぶこともある。また名前で呼ぶ方が親しみがある方もおり、本人のプライバシーなどを尊重しながら不快のない声かけや名前の呼びかけをしている。	入浴の着替え時にはカーテンを閉める、排泄介助時にはドアを閉める等、羞恥心に配慮しています。また居室に入る場合は、ノックをし本人の許可無しに入室しないようにプライバシーに気遣いをしています。	利用者に対し少し言葉がきつい職員が見受けられます。接遇やマナーの研修を行う等、全職員が基本に則り、利用者の誇りを損ねない言葉かけや対応が期待されます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望と意思決定はできる限り尊重し、必要以上に職員が決めたり介入しないようにしている。利用者には何かあれば職員や管理者に相談してくださいと声かけしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人からよく話を聞けるような時間を確保していきたいが、時間がとれないことも多い。職員のペースにあわせることはできるだけしないように徹底している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服が着られるたり化粧ができる方は本人にすべて任せている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「食べることが楽しみ」と話される方もおり、食べたい物を聞いたりすることもある。食事の準備や調理、後片付けをともに行いたい、本人のADL状況低下、昔から片付けや調理などが好きではなかった方がほとんどで、声かけしてもやりたくない様子も強く、ともにできてはいない。	多くの利用者は食事介助が不要ですが、利用者によっては嚥下能力の低下により、ミキサー食を提供しています。利用者同士会話を楽しみながら食事をする光景が見られました。月に1回、利用者の要望に応じて、寿司屋やファミリーレストラン等外食に出かけています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人とよく話をしながら決して無理に勧めたりしないよう注意している。利用者ごとの分量は本人の体調や要望にあわせて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者全員各居室でうがいや歯磨きなどを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表や業務日誌を活用し、本人の体の動きや表情もよく確認しながらトイレの誘導や声かけをしている。日中のオムツは原則使用していない。	朝尿失禁が多かったが、職員の早目の声かけで、徐々に自分からトイレに行くようになり、失禁が無くなった人がいます。夜間は安全に配慮して、ポータブルトイレを使用している方もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食べ物、散歩や日光浴、ホール内での無理のない運動を行うことを心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望の曜日や時間の入浴まではできていない。入浴したくない場合は決して無理に入浴させないことを徹底している。	2日に1回、入浴支援を行っています。ほとんどの利用者が簡易リフト浴機を使用し、職員の負担軽減にも繋がっています。体調に問題があった場合は、翌日に延ばしたり清拭に切り替え柔軟に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のペースと要望にあわせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者が中心となり、提携薬局及び薬剤師と常に話し合いをしながら職員へ説明し対応している。本年は薬剤師と管理者が話をすることが増え、不明な点があればすぐに管理者から薬剤師に相談できる関係が整った。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみなどを職員とともに無理のない範囲で毎日行ってもらっている。毎日テラスに出て日光浴、新聞を読む、居室で自由に過ごすなど本人のペースにあわせている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日テラスに出て日光浴される方がおり、希望にあわせて対応している。本年は水族館見学の外出行事に全ての家族にお誘いをかけ、1組の家族とともに外出行事を挙行することができた。また、利用者より銚子の街の話が出たことを勧案し、銚子への外出も行うこともできた。	週1～2回、天気の良い日に約20分散歩に出かけています。自分からすすんでテラスで日光浴している利用者の姿が見られました。初詣や花見は馴染みの香取神社へ、6月はあやめを見に香取水生植物園に、秋には大洗水族館等に出かける等、皆で遠出を楽しんでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の要望でお金を持ってほしい利用者は本人に管理を任せている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から電話をしたいとの要望もあり、本人から家族へ電話をされる方もいる。年賀状や家族との手紙のやりとりも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	段差や障害物がないよう常に確認している。トイレのドアにはトイレだとわかるよう張り紙をつけている。また季節にあわせた壁飾りを作成し、季節感を感じていただけるよう対応している。	天井が高く光が射し込むホールがリビング兼食堂で、清潔で、ゆったりしており、利用者の1日の憩いの場になっています。季節の花が飾られ、壁には新年の絵馬、行事写真、カレンダー等が貼られ、季節感、生活感を感じます。各人各様にテラスやソファで日向ぼっこしたり、談笑していました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや窓側のイスなどは座席を指定せず、自由に使っていただけるよう声掛けしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は本人の暮らしていた環境に近いような荷物、飾りなどのある居室を作っていただくよう家族にお願いしている。危険物や火気、生の食べ物、動物、多額の金銭などの例外はあるが、本人が不安のない範囲で物の持ち込みは可としている。	居室はエアコン、クローゼット、洗面台が備え付けになっており、床は畳敷きとフローリングの2種類の部屋があり、利用者が快適に過ごせるように配慮されています。利用者は、馴染みの物を居室に持ち込み、居心地良く過ごしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人と話をしながら、快適に過ごせるように障害物などを置かないような安全な空間づくりに努めている。		